

国際ソロプチミストアメリカ

## 2015 年決議文

国際ソロプチミストアメリカの決議文集

### 目 次

序 文 .....	2
連盟決議を運営・管理する手続 .....	3
総合分野 .....	4
2014:1      夢を生きる:女性のための教育・訓練賞	
2010:3      ソロプチミスト会員構成における民族の多様性	
プログラム .....	5
2010: 1      売春を強いられる女性と女兒	
2010:2      投票	

### 序 文

1928 年に連盟が結成されて以来、クラブはソロプチミストの目的を推進するために理解促進、提唱、活動を呼び掛ける決議を採択してきました。ソロプチミストクラブのアメリカ連盟(当時そう呼ばれていました)は、1928 年に首都ワシントンで開催した第 1 回連盟大会で 2 つの決議を採択しました。1930 年のフィラデルフィア大会では、さらに 3 つの決議を採択しました。

決議は採択された年と順番に従って番号が振られています。たとえば、2004:1 議事手続の学習は、2004 年に提案され、採択された第 1 号決議であることを表しています。ある決議を引合いに出すときは、必ずその決議の番号と標題を使用して下さい。

この「決議文集」は、連盟事務局にアーカイブスを設けるという連盟の 75 周年記念プロジェクトの一環として作成されました。アーカイブス担当スタッフ/記録マネージャーのリサ・マンジャフィコが、連盟が採択した決議をすべて年代順に編纂しました。そして決議の内容によって分野別に分け、それを 1994-95 年期規約決議委員会が検討しました。目標がすでに達成されている決議や後の決議に取って代わられた決議は削除しました。この「決議文集」に含まれているものは、その目的が達成されたと見なされるか、連盟大会での措置および郵便投票でクラブによって修正、再確認、廃止されるまでは、現に有効であると考えられている決議です。

決議は、連盟レベルのプログラム活動の重要かつ不可欠な部分となります。連盟の全域において、決議によって連盟の限られた資源の使用が導かれ、非常に重要な問題に理解促進、提唱、活動が集中されます。この決議のプロセスにクラブがもっと積極的に参加することを奨励するために、連盟理事会は「連盟決議を運営・管理する手続」(3 ページ参照)を採択しました。「決議文集」は 2 年ごとに更新されます。

連盟決議文は、国際ソロプチミストが採択し『私たちの見解』で公表している「ソロプチミストのポジション声明文」と重複しないように作られています。クラブは、何らかの問題についてのソロプチミストの姿勢を研究する場合、それに関連するポジション声明文や既存の「決議」を知っておく必要があります。

この「決議文集」が興味をもって読まれ、クラブが新しい決議を提案したり、既存の決議についての意見を寄せるきっかけとなるよう願っています。

## 連盟決議を運営・管理する手続

1. 決議は、きわめて重要な事項に関するもので、広い関心をよびかつ国際的広がりのあるものとする。扱う課題は、ソロプチミストプロジェクトおよび奉仕プログラムに重要な関連があるものでなければならない。愛国的な政治問題にからむ事柄、個人を誉め称えるまたは個人を偲ぶ決議は取り上げない。連盟ポリシー、運営または機構に関する事項などについての決議は、連盟理事会に付託して迅速な審議と処置を求める。
2. 決議文は廃止されるまで、あるいは連盟理事会の同意を得て、規約決議委員会が目的が完遂したとみなしたときまで、現行通り効力があるものとする。
3. クラブおよびリジョンには、すべての決議文を検討し、それについての意見や勧告を連盟規約決議委員会に提出することを奨励する。さらに、連盟規約決議委員会は、10 年間効力のあった現存の決議文を見直し、ソロプチミストプログラム、適時性、見解の変化、新しい知識・情報などの点で適正か否かを検討する。規約決議委員会の勧告によって、そのような決議文を再確認する、改正する、廃止するなどの告知は、措置をとることになる連盟大会の招集状に記載する。効力をもってから 10 年未満の決議文についても、クラブの議決を求めて、見直し、勧告することができる。
4. 決議案を起草する場合、不必要な重複を避けるために、起草者は提案決議案に密接な関係のある現存決議文および『私たちの見解』に掲載されている国際ソロプチミスト見解声明文を理解、認識していなければならない。見通しのある確かな目標と日程を述べる。決議の述べる課題について検討するうえで問題となる次について答えていなければならない。
  - 課題の意味する関心事、問題あるいは機会は厳密に何であるか？
  - 課題がソロプチミストの目的にどのように関連しているか？
  - ソロプチミストクラブは、具体的にどのような「理解促進」、「提唱」、「活動」を行う必要があるのか？
  - 決議を完遂したことによってどのように社会または組織に役立つのか？
5. 決議案提出期限後に持ち上がった緊急な内容の決議は、連盟細則第 13 条第 13.03 項に従って連盟大会審議を求めて上程することができる。

## 総合分野

### 2014:1 夢を生きる:女性のための教育・訓練賞

国際ソロプチミストアメリカの使命は、社会的・経済的エンパワーメントをもたらすプログラムを通じて女性と女兒の生活を向上させることであり、

「夢を生きる:女性のための教育・訓練賞(旧:女性に機会を与える賞)」プログラムは、独立研究機関により女性とその家族の生活向上のために成果を挙げていることが確認されている SIA の主要プログラムであり、

この賞は、集合的影響力を高め、私たちの活動の知名度を高める SIA の努力の中心にあるものの、

SIA クラブの約 25%が、いまだにこのプログラムに参加していない。

SIA は、連盟、リジョン、クラブの支援を通じてのみ、その集合的影響と知名度を高めることができる。

ゆえに、SIA の使命、影響力、知名度にプラスに貢献するべく、すべてのクラブが「夢を生きる:女性のための教育・訓練賞」に参加し、また既存の支援を増やすよう、クラブ、リジョン、連盟レベルであらゆる手段を講じて奨励、推進することを決議する。

(2014 年採択)

### 2010:3 ソロプチミスト会員構成における民族の多様性

1921 年にソロプチミストが創設されて以来、特に北米で、民族的な文化や構成に大きな変化がみられる。

また女性が、運営管理、ビジネス、専門職において指導的立場に就く機会が増えている。

職業、文化、民族グループの多様性は、ニーズに対する認識を深めることを通して、異なる視点を促し、寛容を高め、理解を増大させる。

ソロプチミスト組織は、人権および女性の地位を高める代表的な大きな力として、社会への奉仕を続けることを目指している。

よって、連盟内の全ての国々にあるソロプチミストクラブは、自分たちが奉仕を提供している地域社会の中の民族グループ全てから、適格な代表者を会員に招請することを決議する。

さらに国際ソロプチミストアメリカは、民族的に多様な女性をメンバーシップ資料および広報資料に含めることにより、そういった努力を支援することを決議する。

(1990 年採択、2000 年改正、2010 年再確認)

## プログラム

### 2010: 1 売春を強いられる女性と女兒

売春を強いられる女性と女兒は、繰り返し殴られ、レイプされており、その 68%が心的外傷後ストレス障害 (PTSD) の規準を満たすように、売春は女性に対する暴力の一形態である。

自分の体を一日に 5 人から 20 人の男性に売することは、職業の「選択」とは言えない。

調査によると売春を強いられる女性の 89%が可能であれば直ちに売春をやめたいと考えている。

殺人率が売春以上に高い職業は他に存在しない。

売春が女性と女兒の人身売買の横行を助長している。

大部分の売春婦が自分と自分の収入をコントロールする他者に支配されている。

社会の人々の多くが、売春を犠牲者なき犯罪という認識を持ち続けている。

女性と女兒の体を売買することを黙認する限り、女性に対する暴力が終結することはなく、また男女平等も達成されることはない。

買春を犯罪化し、売春を非犯罪化した唯一の国(スウェーデン)でのみ、実際に人身売買と売春が減少している。

「危害の低減」を目標とする売春の合法化では、基本的人権の保護が不十分である。

よって、ソロプチミストクラブは、売春を女性に対する暴力として非難し、女性と女兒の売春を終焉させ、人身売買を減少させるために以下の活動に取り組むことを決議する。

1. 売春の被害者を支援し、その被害者を犯罪者として扱わない法律とプログラムを支持する。
2. 買春を犯罪化する法律を提唱する。
3. 買春する人に対して(元売春婦も交えたワークショップなどの)教育を奨励する。
4. 若者に男女の健全で親密な交際を教える学校プログラムを推進する。
5. 売春合法化の努力に対抗する。
6. 売春についての態度を「世界最古の職業」から「世界最古の抑圧」に変えるよう努力する。
7. 自分の身近にいる男性・男子とともに売春について率直かつオープンに話し合い、売春が女性と女兒、また男女関係に及ぼす影響を語る。
8. 売春を正当な職業として取り扱う努力に反対する。

(2010 年採択)

### 2010:2 投票

国際ソロプチミストアメリカは、地元および国内レベルで変化を引き起こすための投票の力と重要性を確信している。

情報をもった住民が投票権を行使することは、民主主義の基礎である。

よって、ソロプチミストの一人ひとりが投票権を行使すると共に、地域社会の他の住民に対して、案件に関する情報を得、選挙人名簿に登録し、投票するように奨励することを決議する。

(1950 年採択、2000 年改正、2010 年再確認)